

指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第 70 集

令和 4 年度市内遺跡発掘調査報告書

迫田遺跡
敷領遺跡
道下遺跡
上弘遺跡

令和 5 (2023) 年 3 月

指宿市教育委員会

序

本書は令和4年度の指宿市内における各種開発行為に対応する確認調査、工事立会結果に加え、平成28年度に実施した迫田遺跡の確認調査成果をまとめたものです。

迫田遺跡は、平成9年度の確認調査において、古墳時代の土器集中廃棄所が確認されており、周辺には古墳時代集落が広がっていたことが考えられます。本書で掲載する確認調査においても、古墳時代の遺物包含層が確認されました。

また、これまで開聞地域では火山灰層が厚く堆積していることから、遺物包含層の有無などは不明瞭な状況でしたが、上払遺跡において古墳時代後期から飛鳥時代に位置づけられる遺物を得ることができました。

これらの成果を多くの方々にご覧いただき、指宿市の文化財が市民の方々に保護・活用されることを祈念いたします。

令和5年3月

指宿市教育委員会

教育長 吉元 鈴代

例言

1. 本書は鹿児島県指宿市十町南迫田に所在する迫田遺跡，同市十町に所在する敷領遺跡，同市西方に所在する道下遺跡の確認調査報告書である。本書に所収する上払遺跡では，発掘調査は実施していないが，遺物を収集したことから報告するものである。
2. 発掘調査は指宿市教育委員会で実施した。調査は迫田遺跡を松崎大嗣が，敷領遺跡，道下遺跡を江口寛基，西牟田瑛子が担当した。調査組織は以下のとおりである。

発掘調査主体者	指宿市教育委員会		
発掘調査責任者	指宿市教育委員会	教 育 長	吉 本 鈴 代
発掘調査担当組織員	指宿市教育委員会	教 育 部 長	紺 屋 聖 一
		歴 史 文 化 課 長	上 菌 浩 司
		主幹兼文化施設管理係長	上 村 真 史
		文化施設管理係主査	内 山 正 人
		文化施設管理係主査	中 摩 浩 太 郎
		主幹兼文化係長	鎌 田 幸 博
		文化財係主査	西 牟 田 瑛 子
		文化財係主任	松 崎 大 嗣
		文化財係技師	江 口 寛 基
		文化財係技師	新 垣 匠

3. 本書の編集は松崎大嗣がおこなった。
4. 調査，および報告書作成に要した経費のうち，50%は国，3.9%は県からの補助を得た。
5. 本報告書における方位は真北方向を示す。
6. 層・遺物の色調は『新版標準上色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し，一部土色計 SCR-1 を利用した。
7. 本文中の遺物番号は，挿図，図版と一致している。
8. 発掘調査で得たすべての成果については，指宿市考古博物館時遊館 COCCO はしむれで保管し，活用する。なお，遺物注記の略号は以下の通りである。

迫田遺跡：SKD 敷領遺跡：SIKI

目次

第1章 迫田遺跡

第1節 遺跡の立地と環境, 調査履歴	1
第2節 試掘調査に至る経緯	2
第3節 調査結果	3

第2章 敷領遺跡

第1節 遺跡の立地と環境, 調査履歴	13
第2節 試掘調査に至る経緯	16
第3節 調査結果	16

第3章 道下遺跡

第1節 遺跡の立地と環境, 調査履歴	17
第2節 試掘調査に至る経緯	17
第3節 調査結果	17

第4章 上払遺跡

第1節 遺跡の立地と環境, 調査履歴	19
第2節 採集遺物の紹介	19

工事立会結果	21
--------	----

第1章 迫田遺跡

第1節 遺跡の立地と環境，調査履歴

迫田遺跡は指宿市十二町堂ノ後一帯に所在する。遺跡は、山裾に近い緩やかに傾斜する海拔20m前後の火山性扇状地上にあり、橋牟礼川遺跡から北西約2kmの地点に位置する。迫田遺跡は、平成9年、民間宅地造成に伴う水道管理設工事現場から、古墳時代の土器捨て場が発見されたことによってその存在が明らかとなった。迫田遺跡の南には、南迫田遺跡が隣接して広がっている。

南迫田遺跡は、弥生時代から近世までの複合遺跡で、ふるさと農道整備事業に伴い、平成6年度に確認調査が、平成10年度に本調査が実施され、弥生時代の遺構・遺物をはじめ、北西-南東方向に伸びる中世～近世にかけての道跡が12条検出された。これらの道跡は、繰り返し使用され補修されたものであり、道の造営以前には、溝状遺構があったことが判明した。一連の遺構は、現在同様山手側に土手を控えて構築されており、中世以降現代まで調査地点付近の景観が大きく変わることなくありつづけたことを示している。

さて、道跡が伸びる先、迫田遺跡の西に近接する地点は、三国名勝図会に登場する光明寺の跡地と推定されているエリアである。光明寺に関連する歴史資料に南迫田の光明禅寺に保管されている板碑がある。



図1 光明開基の碑

板碑の側面には、

- 銅七□
- 光明開□
- 六月□
- 光明開基
- 法相宗□

の文字が刻まれている。この板碑は、南迫田の通称



図2 迫田遺跡の位置

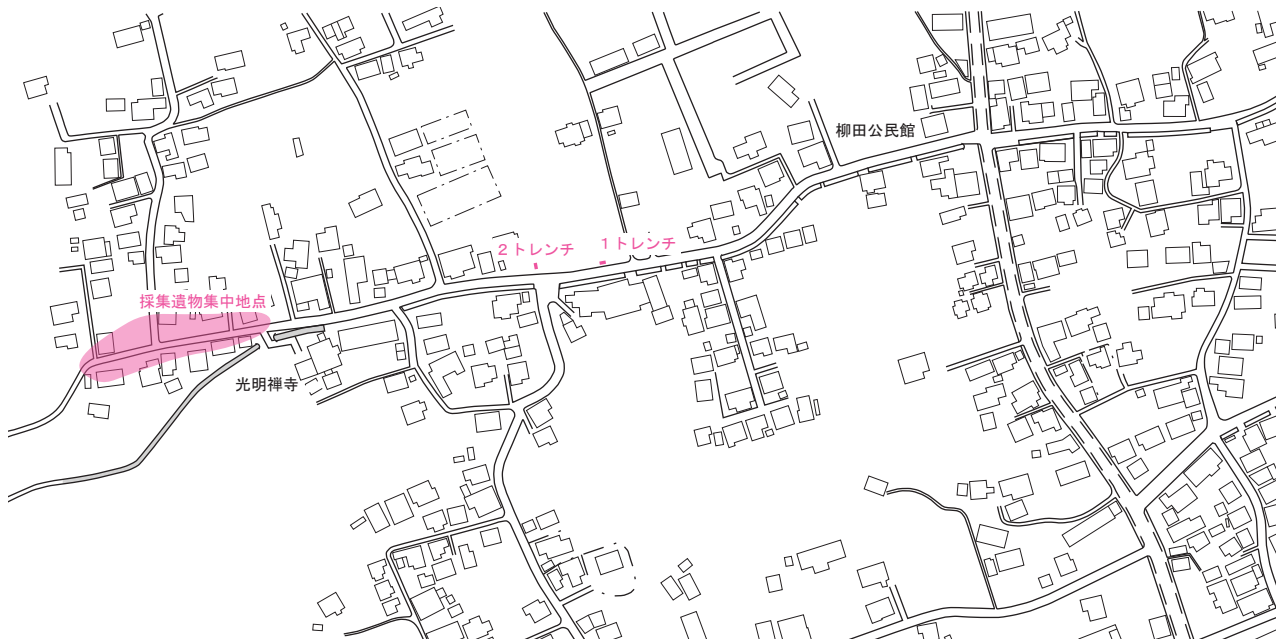


図3 トレンチ配置図 (S=1/1000)

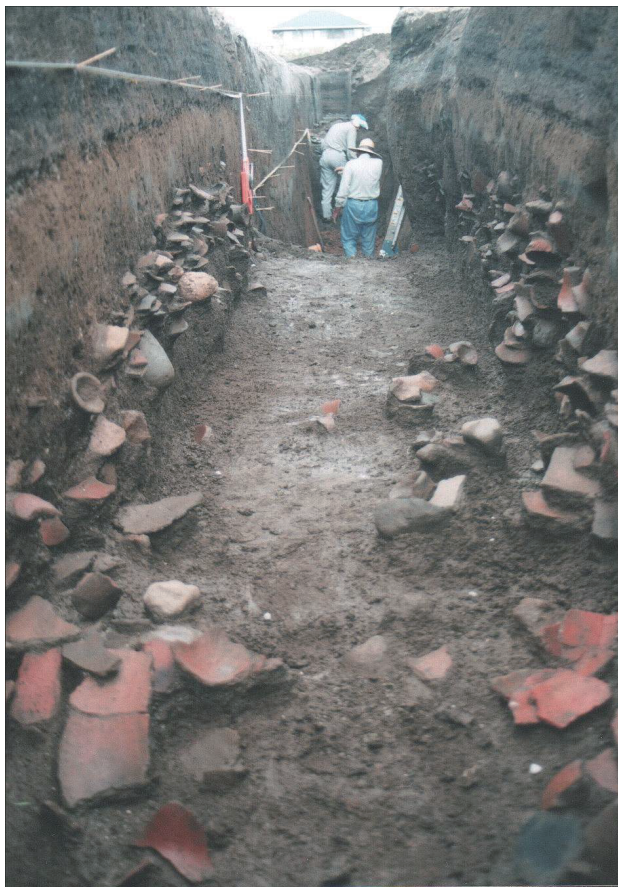


図4 迫田遺跡土器溜まり

『テランヤマ(寺山)』付近の河川敷で発見されたもので、幕末から明治初めにあった廃仏毀釈により破壊されたものと伝えられる。

碑文の内容は、「和銅七年光明開基六月□法相宗」と解され、平安時代に指宿市東方の山中に建立された光明

寺のことを示すものと言われている。安政6年(1859)に建てられた「指宿東方村唐山記」という石碑には、光明寺は和銅年間(708～713)に僧定慧によって開山されたと記されており、また『三国名勝図会』には、文武天皇元年(697)に、法相宗を修めた僧定慧により開山され、十一面観音が安置されたと記されている。

板碑は、全体の形が天文12年(1543)の「湯豊宿」の板碑に類似しており、応永年間(15世紀)に、廃退していた光明寺を再興した後に作られたものとも考えられる。

なお、これまで光明寺跡と伝えられる地点は、民間企業の所有する山林で発掘調査等は行われておらず、具体的な遺構や関連を示す遺物については明らかになっていないため、周知の遺跡地として範囲を指定できていない。

第2節 試掘調査に至る経緯

平成27年度において、指宿市建設部によって市道柳田迫田線の拡幅工事計画に伴う埋蔵文化財照会があった。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「迫田遺跡」地内に含まれているとともに、前節のように、迫田遺跡地内では平成9年度に古墳時代の集落の一部とみられる遺構等が確認されている。市道柳田迫田線の拡幅予定地がこれに隣接していることから、遺跡の有無を確認する目的で事前に試掘調査を実施することとした。

平成27年度の調査では、7世紀後半に堆積した開聞岳火山灰「青コラ火山灰層」の下層から古墳時代後期に位置づけられる土器が出土した。そのため、平成9年度

に確認した土器捨て場を中心に、周囲に遺物包含層が広がることが考えられ、工事によって削平される恐れがあった。そこで、道路拡幅によって影響を受ける範囲について平成28年度に事前確認調査をすることとなった。なお、結果を先に述べると、道路拡幅は道幅も狭小であり発掘調査が難しいこと、削られる範囲も少ないことなどから、本調査は実施せず、工事立会時に影響を受ける範囲において記録保存を行うこととなった。

第3節 調査結果

表面採集遺物 調査範囲周囲で陶磁器類を中心に遺物を採集したので以下に記す。なかでも、光明禅寺から東側の畑地では集中的に採集できた。

1は口縁部が直線的に開く磁器碗である。外面の絵付けには、将棋の駒（王将・桂馬）が見られる。

2は磁器碗である。高台が付くタイプである。

3は丸みをもつ磁器碗で、口径8.5cmを測る。外面の絵付けは菊花文と幾何文がみられる。高台内面には砂が付着する。

4は染付（印判）碗である。見込みには蛇目釉剥ぎがみられる。口径10.2cmを測る。

5は小型碗で、口径5.3cm、器高2.7cmを測る。外面には菊花文が3つみられる。

6は口縁部が直線的に開く磁器碗で、外面には松の絵付けがわずかに見える。

7は口縁部がわずかに外反するタイプの磁器碗である。外面には染付がみられる。

8は腰の部分で強く内傾する小型の磁器碗である。見込みには鳥の染付がみられる。

9は丸みをもつ磁器碗で、外面には格子状の絵付けがみられる。高台部分はやや歪みがある。見込み部分には蛇目釉剥ぎがみられる。

10は小型の磁器碗である。

11は波状口縁をもつ磁器皿で、口径13.1cm、器高3.2cmを測る。内面は染付（印判）がみられる。

12は磁器皿であり、口径13.9cm、器高2.9cmを測る。高台は断面三角形を呈し、内面には砂が付着する。見込み部分には蛇目釉剥ぎがみられる。

13は大型の磁器皿である。内面には呉須の上から色絵がみられる。

14は磁器碗である。高台径8.6cmを測る。

15は磁器皿で、見込み部分は平面形で八角形にくぼむ。

16は底部が碁笥底となる青花皿である。外面には幾

何文の絵付けがみられる。

17は磁器鉢である。胴部片で、内面には強いロクロ目が残る。

18は陶器碗である。外面は青緑色に発色する。

19は陶器皿で高台高は1.8cmを測る。外面には褐釉がみられる。

20は陶器碗で、見込みには蛇目釉剥ぎがみられる。内外面とも褐釉が施される。

21は底径6.0cmを測る陶器皿で、外底面は糸切痕が残る。底部～立ち上がりにかけて露胎する。

22は陶器碗である。外面のみ釉薬がかかる。

23は片口である。口径17.6cmを測り、口縁部は玉縁状となる。内面には目跡が残る。

24は摺鉢である。口縁部内面には丁寧なヨコナデがみられ、現代品と考えられる。

25は苗代川産の甕で、口縁部が逆L字状になる。口径は28.1cmを測る。

26は摺鉢である。口縁端部は丸く、やや歪みがみられる。口縁部上面には目跡が残る。

27は元立院産の甕で、口縁部が屈曲する。口縁下部には一条の突帯をもつ。外面には蛇褐釉がみられる。

28は摺鉢底部である。底径15.2cmを測る。

29は筒型陶器である。花瓶と考えられる。底部外面は露胎する。

30は苗代川産の鉢と考えられる。中央に穿孔がみられる。

31は大型の鉢である。底径21.4cmを測る。内面には丁寧なロクロ目が残る。

32は素焼きの火鉢である。

33は火入れと考えられ、ススが口縁部周辺に付着している。

34は琉球産と考えられる壺口縁部である。口径は17.4cmを測る。

35は陶器土瓶である。注口部には3つの穿孔がある。外面には釉薬がみられる。

36は土瓶蓋である。

37は琉球産の徳利である。底径7.5cmを測る。

38はガラス瓶である。口縁部にはねじ切りがみられる。

39は「みやこ染」のガラス瓶である。口径2.0cm、器高6.2cmを測る。

40は長方形の石製品である。砥石の可能性もある。穿孔をもつ。



图5 采集遺物 1

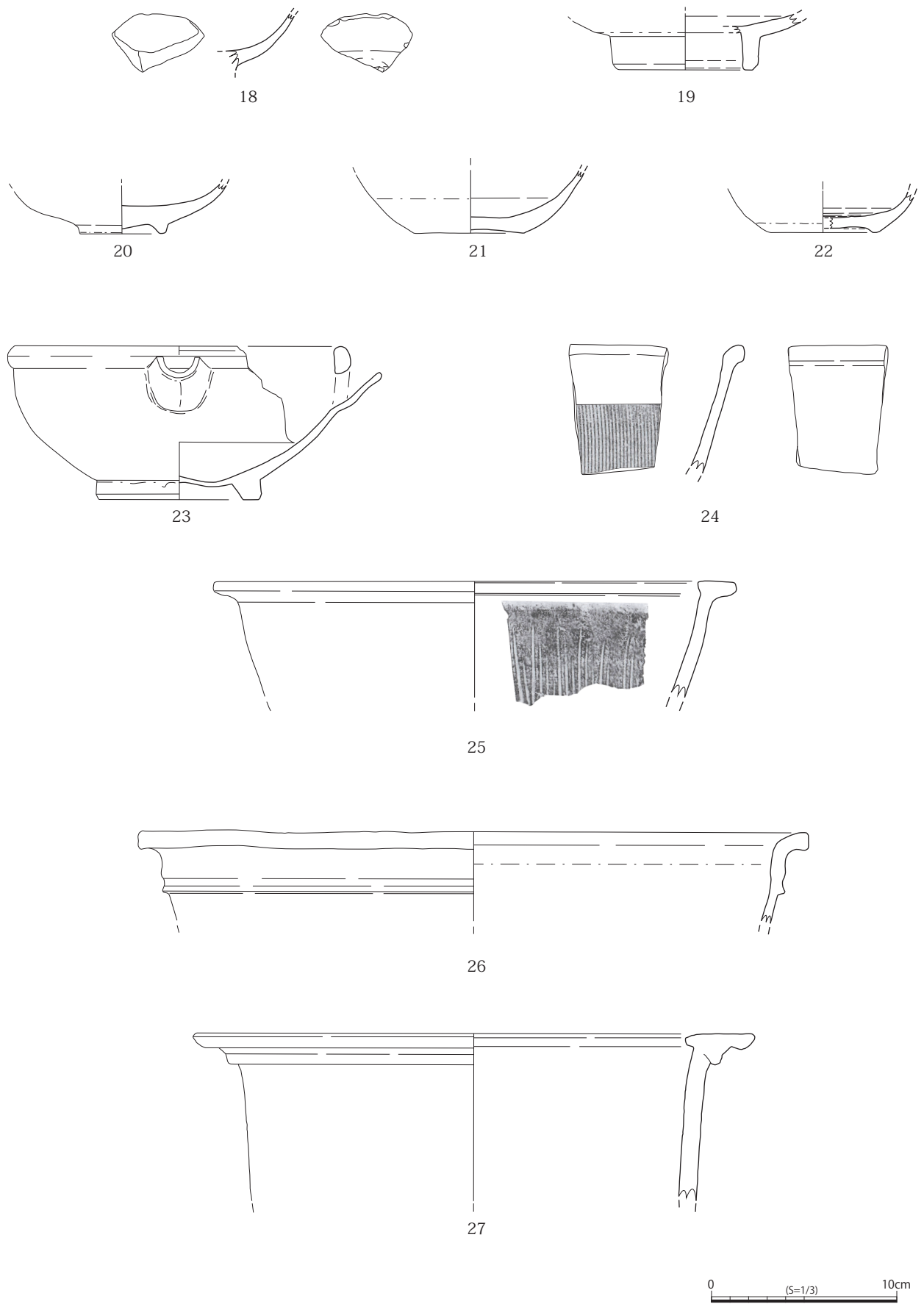


图6 采集遺物 2

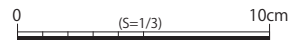
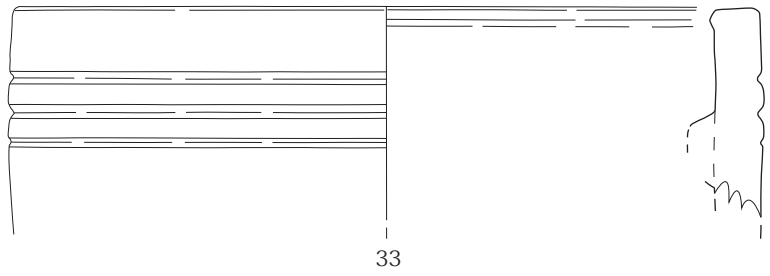
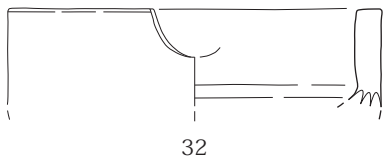
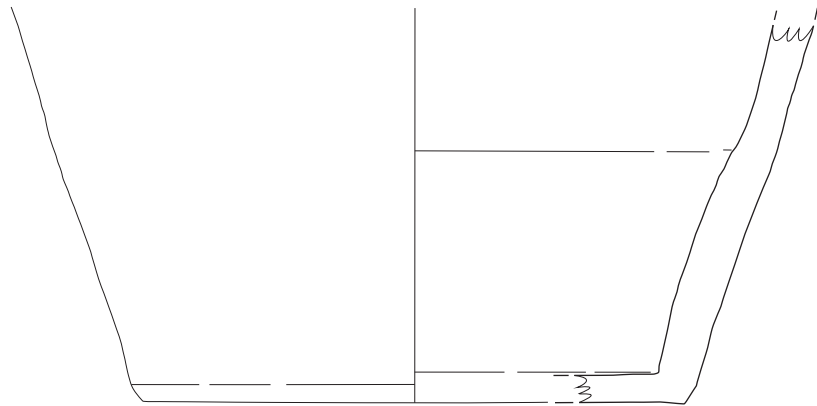
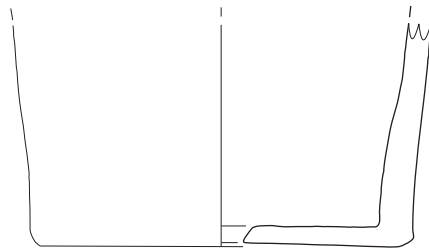
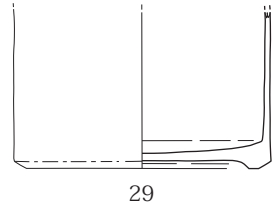
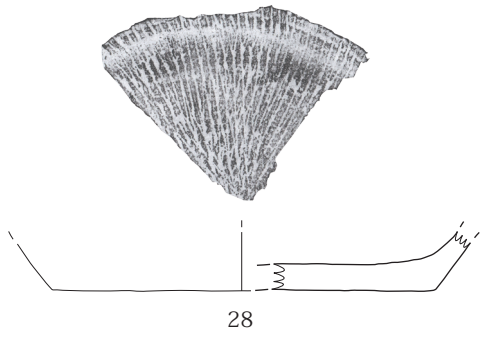


图7 采集遺物3

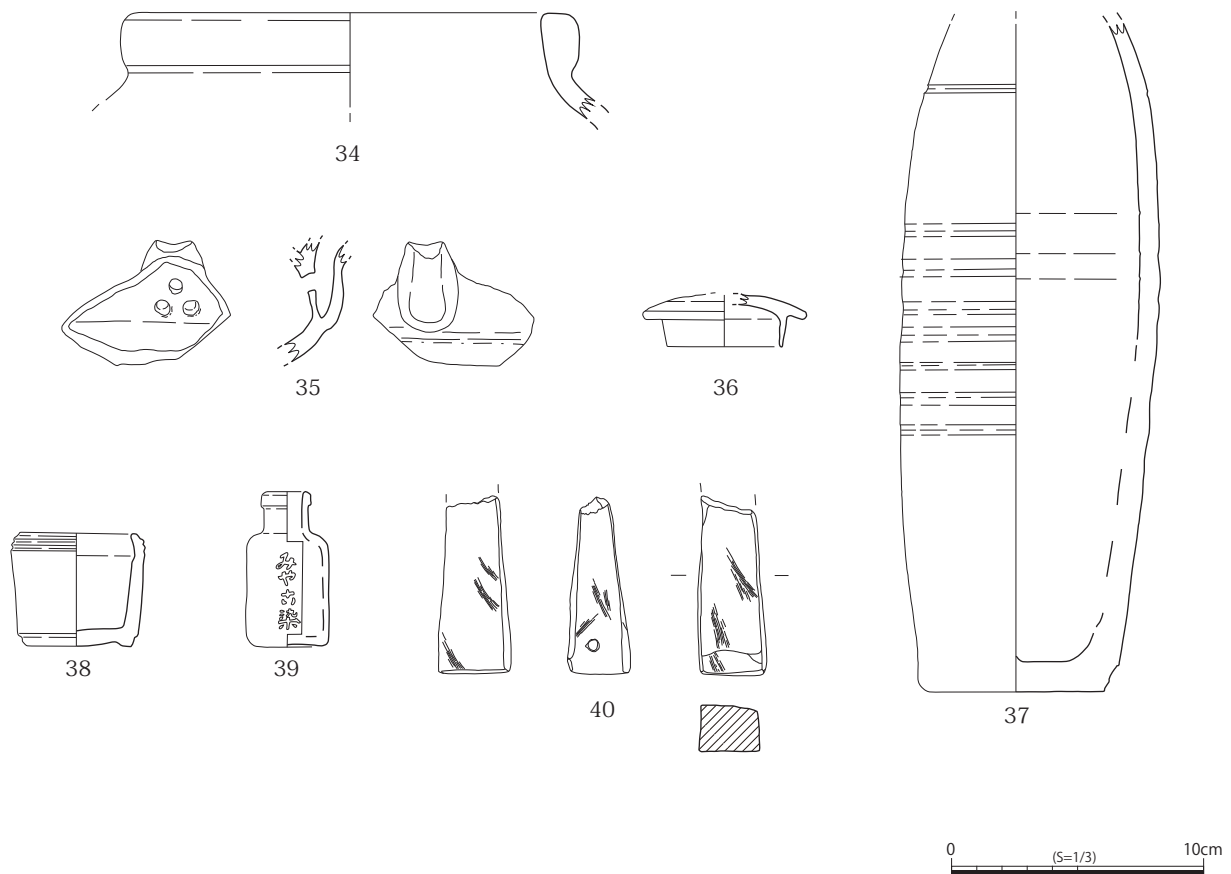


図8 採集遺物4

(1) 1トレンチ

1トレンチは湯通堂青果前の畑地に設定した。耕作面は道路面よりも30cmから50cmほど高くなっている。重機による掘削を行ったところ、地表面から80cmほどで紫コラ火山灰層を確認した。火山灰層の厚さは、20～25cmほどであった。さらに地表面から120cmほどで青コラ火山灰層を確認している。続く2トレンチの堆積状況（ブロック状堆積）とは異なり、ここでは層として認識することができた。

本トレンチでは、紫コラ火山灰層下位の6層から土器(41)が出土している。鉢の口縁部である。内外面ともナデ調整である。

(2) 2トレンチ

2トレンチは畑の中に設置した。地表面から50cmほど掘り下げると、水道管の埋設があったことから、それを避ける形で、掘削を行った。地表面から50～60cmの深さで、紫コラ火山灰層、70cmほどで青コラ火山灰層を確認した。

また、8層中において、トレンチ南壁に付く形で、不整形な土坑SK1を確認した。遺構の規模は不明だが、

甕の脚部(44)が出土している。

42, 43は青コラ上面～同レベルで出土している。42は甕の口縁部である。口縁部下に一条の突帯をもつ。端部はコの字を呈する。

43は短頸壺の口縁部である。器壁は非常に薄く、硬質である。

44はSK1から出土している。甕の脚部である。端部は欠損している。脚部内面には放射状の工具ナデ痕跡がみられる。

45から56は8層出土の遺物である。

45は甕の突帯部である。断面が三角形を呈するものである。器壁は薄い。

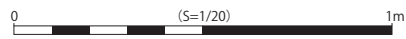
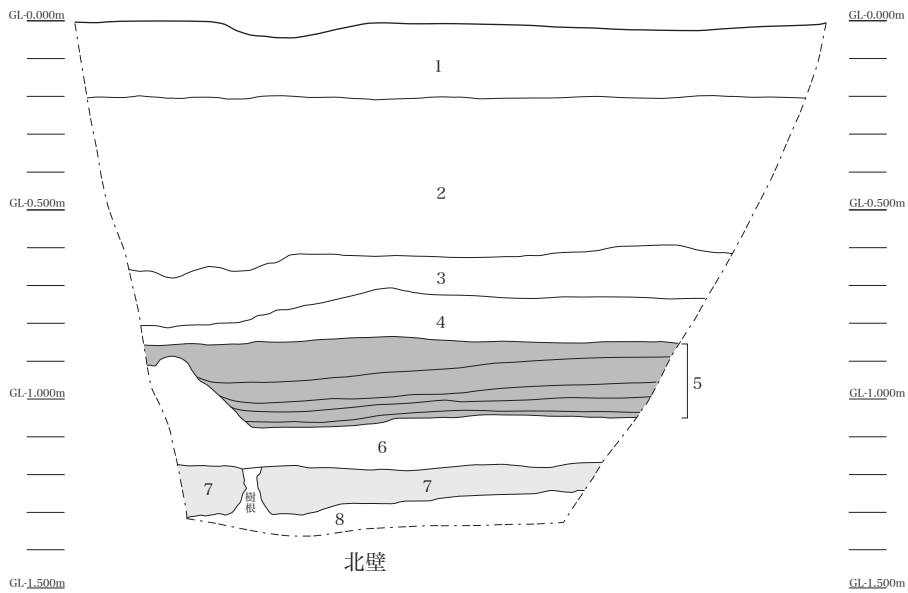
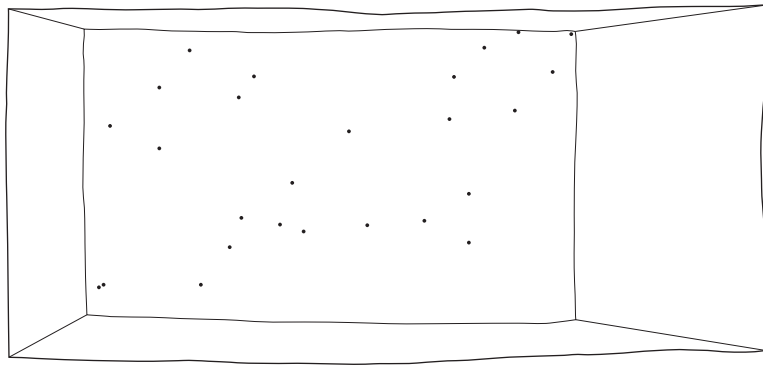
46は甕の突帯部である。外面は薄橙色に発色する。やや摩滅している。

47は甕の突帯部で、外面にはススが付着する。

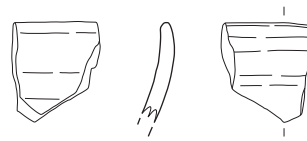
48は内湾する甕の口縁部～突帯部である。外面にはススが付着する。内面はわずかにミガキがみられる。

49は甕の脚部である。内面はコゲが濃密に付着している。内外面ともナデ調整である。

50は甕の脚部で、接地面は平坦となる。脚端部はややゆがむ。



- 1 表土
- 2 褐色土層
- 3 黒色土層 (中世)
- 4 黒褐色土層
- 5 紫コラ火山灰 (Km12a)
- 6 橋牟礼川遺跡第6層相当 遺物包含層
- 7 青コラ火山灰層 (Km11)
- 8 橋牟礼川遺跡第8層相当 遺物包含層



41

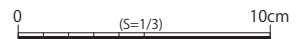


図9 1 トレンチ平面図・断面図および出土遺物

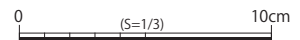
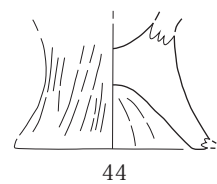
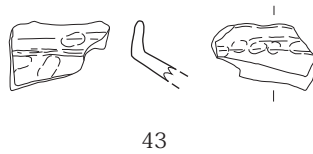
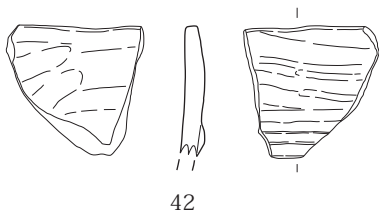
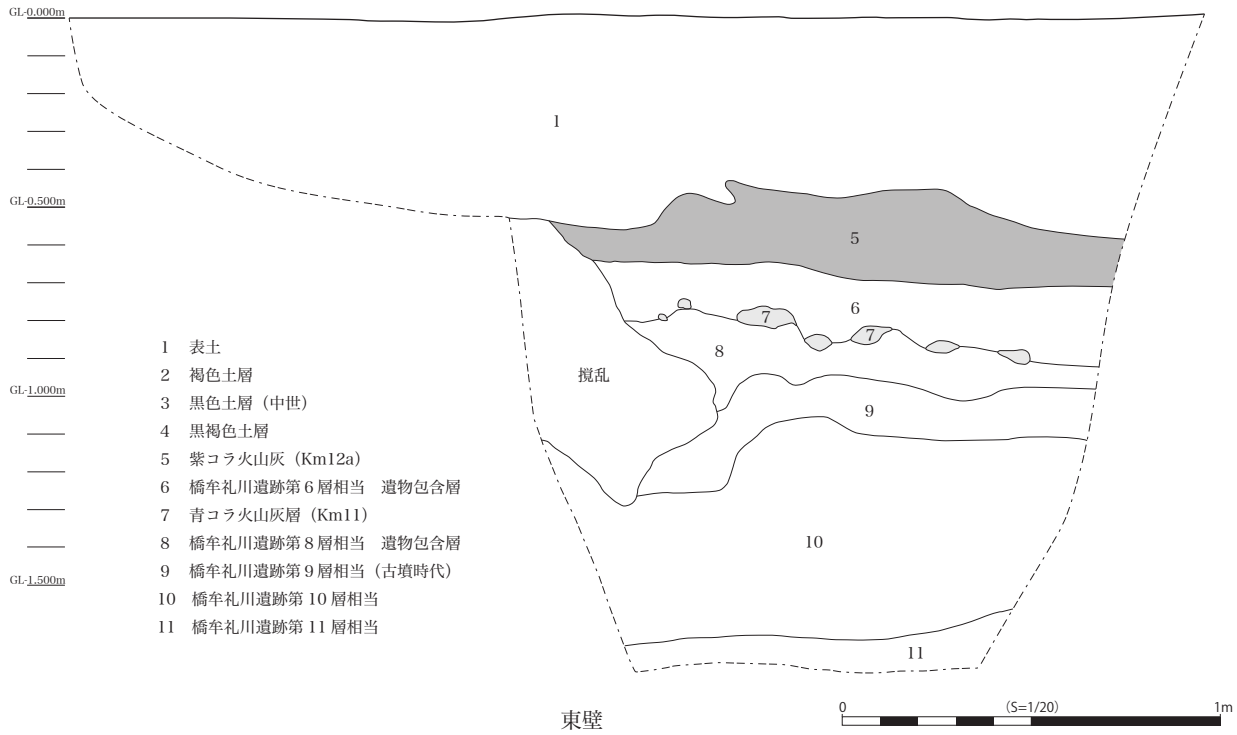
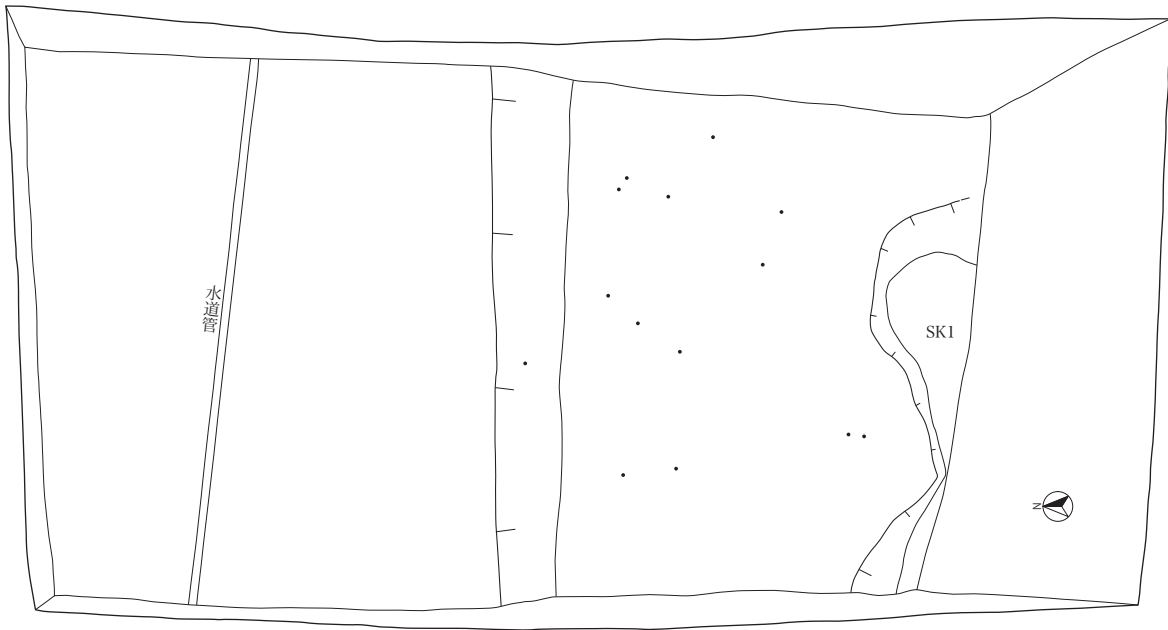


図10 2トレンチ平面図・断面図および出土遺物

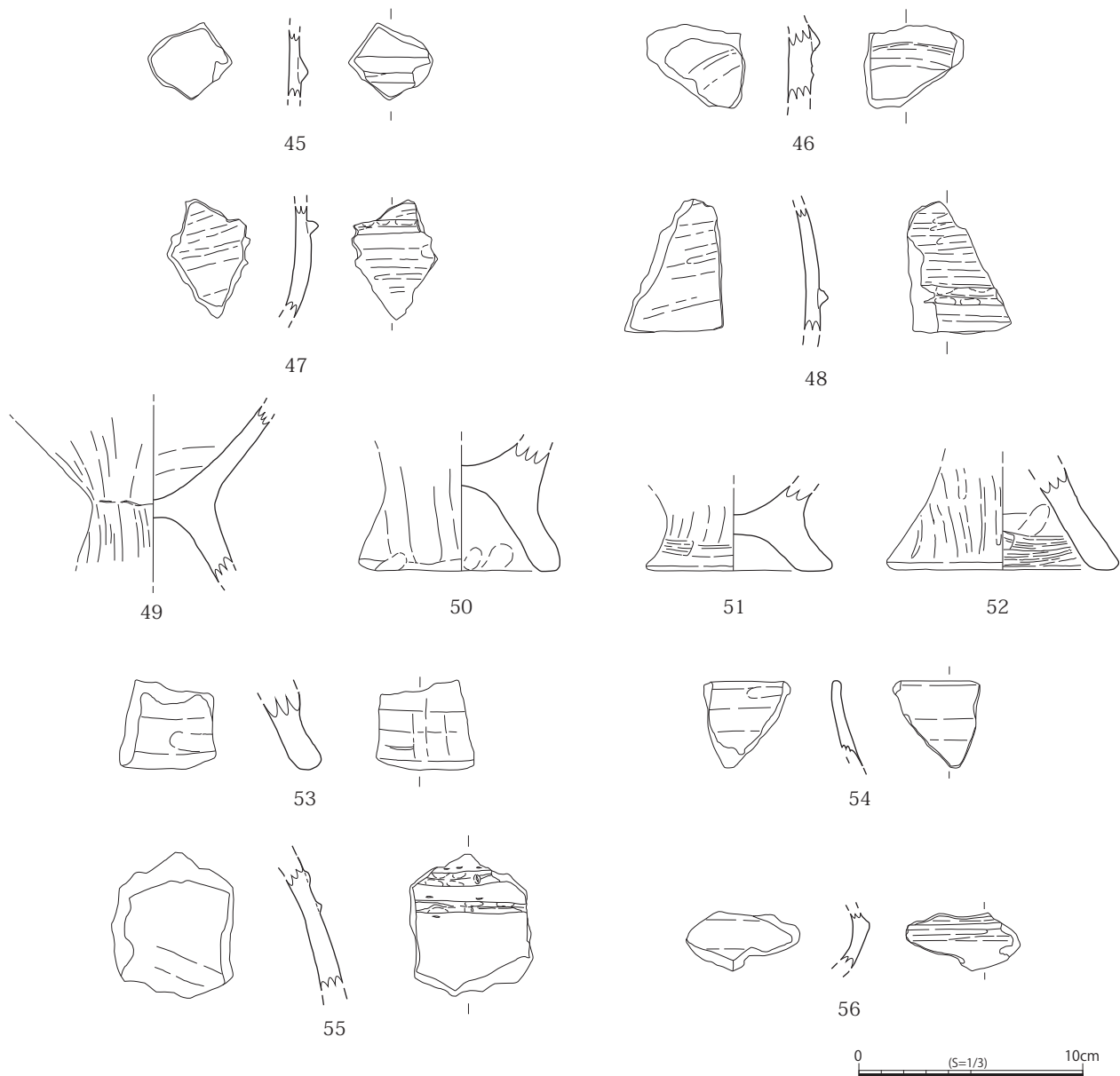


図11 2トレンチ 8層出土遺物

51 はハの字に開く甕の脚部で、内外面とも淡桃色に発色する。やや軟質である。

52 は甕の脚部で、外面は縦方向のミガキがみられる。

53 は脚端部である。摩滅が著しく、調整等は不明瞭である。

54 は甕の口縁部で、内傾して立ち上がるものである。

55 は壺の胴部片で、外面には突帯が2条張り付く。

56 は埴の胴部片である。

まとめ

以上、市道柳田迫田線拡幅工事に伴う確認調査を行ってきた。2つの調査区では開聞岳を給源とする紫コラ火

山灰層、青コラ火山灰層を確認することができ、それぞれの火山灰層下では遺物の出土があった。

本調査区周辺では、古墳時代の土器溜まりを確認していることから、今後の調査において、廃棄主体の集落等が発見される可能性がある。また、柳田交差点周辺では、平成30年度に実施した敷領遺跡第16次調査において、紫コラ火山灰層によって倒壊した掘立柱建物跡、畠跡等が確認されている。敷領遺跡と迫田遺跡は近接しており、火山灰層の堆積状況や厚さも類似していることから、平安時代、古墳時代の集落の広がりを考える上で、今後も注意深く調査を行う必要がある。

表1 迫田遺跡出土遺物観察表1

番号	区	層	遺構	器種	部位	寸法										脂和材	備考	
						口径	器高	底径	脚径	脚部高	突帯幅	その他	内面	外面	断面			丹
1		1		磁器碗	口縁~底部	(12.1cm)	5.3cm	高台径：(4.6cm)									一般	良好
2				磁器碗	口縁~底部	(10.6cm)	5.2cm	高台径：(3.8cm)									一般	良好
3		表土		磁器碗	口縁~底部	(8.5cm)	4.8cm	高台径：(3.2cm)									一般	良好
4				磁器碗	口縁~底部	10.2cm	5.0cm	高台径：3.8cm									一般	良好
5		2	1	磁器小杯	口縁~底部	5.3cm	2.7cm	2.0cm									一般	良好
6		1		磁器碗	口縁部	(11.0cm)											一般	良好
7		6		磁器碗	口縁部	(10.2cm)											一般	良好
8		表土		磁器碗	底部			高台径：4.3cm									一般	良好
9		1		磁器碗	胴~底部			高台径：(4.3cm)									一般	良好
10		1		磁器碗	底部			高台径：(4.4cm)									一般	良好
11		1		磁器皿	口縁~底部	13.1cm	3.2cm	高台径：7.6cm									一般	良好
12		1		磁器皿	口縁~底部	13.9cm	2.9cm	高台径：7.6cm									一般	良好
13		1		磁器皿	底部			高台径：9.3cm									一般	良好
14		1		磁器皿	底部			高台径：(8.6cm)									一般	良好
15		1		磁器皿	底部			高台径：(7.3cm)									一般	良好
16		1		磁器碗	底部			(3.2cm)									一般	良好
17				磁器小型火鉢	胴部												一般	良好
18		1		陶器碗	底部												一般	良好
19		表土		陶器碗	底部			高台径：7.3cm		高台高：1.8cm							一般	良好
20		1		陶器皿	底部			高台径：4.6cm									一般	良好
21		1		陶器皿	底部			6.0cm									一般	良好
22		表土		陶器碗	底部			5.8cm									一般	良好
23		1		陶器片口鉢	口縁~底部	17.6cm	8.3cm	8.6cm									一般	良好
24		1		陶器摺鉢	口縁部												一般	良好
25		1		陶器摺鉢	口縁部	(28.1cm)											一般	良好
26		2	1	陶器鉢	口縁部	(36.0cm)											一般	良好
27		表土		陶器鉢	口縁部	30.4cm											一般	良好
28				陶器摺鉢	底部			(15.2cm)									一般	良好
29		1		陶器	底部			(9.2cm)									一般	良好
30		1		陶器鉢	底部			(15.2cm)									一般	良好
31		2	1	磁器鉢	底部			21.4cm									一般	良好
32		1		火鉢	口縁部	(14.8cm)											一般	良好
33		1		火入れ	口縁部	(29.7cm)											一般	良好
34		1		陶器壺	口縁部	(17.4cm)											一般	良好
35		1		陶器土瓶	注口												一般	良好
36		1		陶器壺	基部	(4.6cm)											一般	良好
37		1		瓶	胴~底部			7.5cm									一般	良好
38		1		ガラス瓶	口縁~底部	4.5cm	4.5cm	4.3cm									一般	良好
39		1		ガラス瓶	口縁~底部	2.0cm	6.2cm	3.0cm									一般	良好
40		1		石製品		長さ：7.0cm	幅：2.8cm	高さ：2.3cm	重さ：51g								一般	良好
																		穿孔径：0.48cm

表2 迫田遺跡出土遺物観察表2

番号	区	層	遺跡	器種	部位	寸法						色調				混和材	取上番号	備考	
						口径	器高	底径	脚径	脚部高	突帯幅	その他	外面	断面	丹				外面
41	1	6		鉢	口縁部								10YR7/3にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	2.5Y4/1黄灰		石英・角閃石	16	良好
42	2			甕	口縁部						(1.3cm)		10YR7/2にぶい黄橙	7.5YR5/2灰褐	10YR7/3浅黄橙		石英・角閃石	一般	良好
43	2			小型壺	口縁部								7.5YR7/4にぶい橙	5YR6/3にぶい橙	7.5YR8/2灰白		石英・角閃石・白色 粒・黒色粒・雲母	2	良好
44	2		SK1	甕	脚部		5.3cm						7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/4にぶい黄橙	10R6/6赤橙		石英・角閃石・白色粒	一般	良好
45	2	8		甕	突帯部						1.2cm		2.5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR7/3にぶい橙	2.5YR5/6明赤褐		石英・角閃石・白色粒	一般	良好
46	2	8		甕	脚部						(1.3cm)		5YR7/2明褐灰	2.5YR5/4にぶい赤褐	5YR7/2明褐灰		石英・角閃石	一般	良好
47	2	8		甕	突帯～脚部						0.7cm		7.5YR6/3にぶい橙	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR7/3にぶい橙		石英・角閃石・赤色粒	11	良好
48	2	8		甕	口縁～突帯部						1.0cm		7.5YR6/4にぶい橙	10YR5/2灰黄褐	7.5YR7/3にぶい橙		石英・角閃石・白色 粒・赤色粒	一般	良好
49	2	8		甕	胴～脚部		5.5cm						7.5YR3/1黒褐	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/3にぶい橙		石英・角閃石・白色粒	一般	良好
50	2	8		甕	脚部		6.8cm	9.0cm		3.6cm			5YR6/3にぶい橙	5YR6/3にぶい橙	5YR6/4にぶい橙		石英・角閃石・白色 粒・黒色粒・黒雲母	一般	良好
51	2	8		甕	脚部			8.3cm		2.5cm			7.5YR7/1明褐灰	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR7/2明褐灰		石英・角閃石・白色 粒・黒色粒	一般	良好
52	2	8		甕	脚部			10.3cm					5YR7/4にぶい橙	10YR6/4にぶい黄橙	5YR7/4にぶい橙		石英・角閃石・白色粒	一般	良好
53	2	8		甕	脚部								7.5YR7/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		石英・角閃石・白色 粒・黒色粒	一般	良好
54	2	8		甕	口縁部								10YR7/3にぶい黄橙	2.5YR7/3淡赤橙	10YR7/3にぶい黄橙		石英・角閃石・白色粒	一般	良好
55	2	8		壺	胴部						0.7cm		7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	10YR5/2灰黄褐		石英・角閃石・白色 粒・褐色色粒	一般	良好
56	2	8		埴	脚部								5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	5YR3/4暗赤褐		石英・角閃石・赤色粒	一般	良好

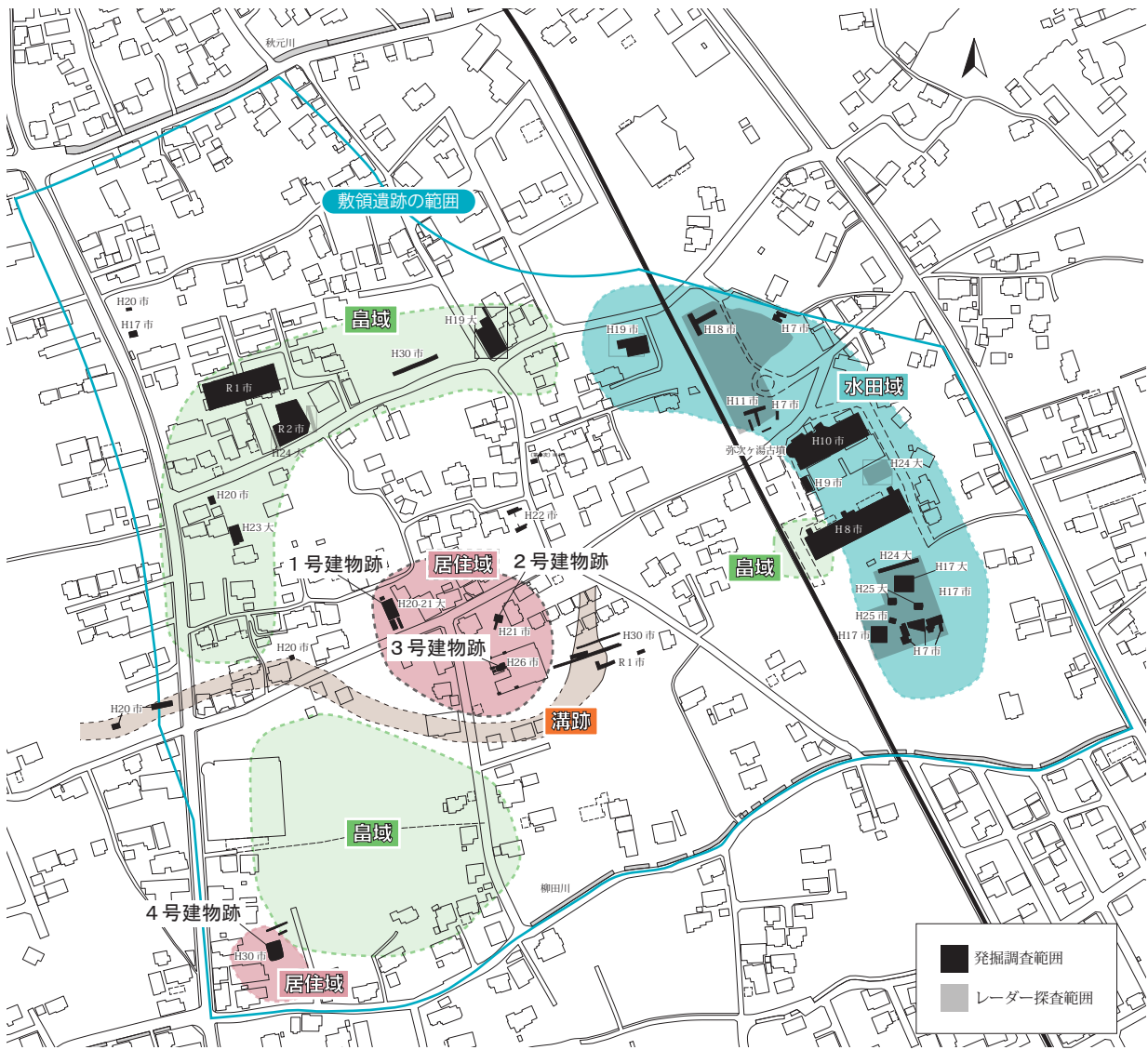


図 13 874 年火山災害時の敷領遺跡の景観模式図

表3 敷領遺跡調査履歴

調査次	年度	調査日	調査の概要	調査報告書	注記
	平成7年度 (1995年度)		遺跡範囲確認調査により紫コラで埋没した水田跡を検出した。		
第1次	平成8年度 (1996年度)	平成8年11月6日～ 平成9年3月31日	弥次ヶ湯団地建替事業に伴い調査を実施。874年の火山災害により埋没した水田と畠跡。奈良～平安時代の官衙敷性格を帯びた遺構群や墨書土器、鉄製こう台が出土した。また古墳・弥生時代の堅穴住居跡も発見され、弥生～平安時代に至る複合遺跡であることが判明した。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書25	SHIKI1
-	平成9年度 (1997年度)	-	弥次ヶ湯団地に隣接する温泉タンク設置に伴う発掘調査。紫コラで埋没した水田、古代の柱穴群、古墳時代の柱穴を検出。遺物は無し。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書31	-
第2次	平成10年度 (1998年度)	平成10年7月27日～ 平成11年3月31日	弥次ヶ湯団地事業に伴う調査。874年の火山災害により埋没した水田と畠跡、大畦を検出。古代の建物跡や須恵器、土師器も出土している。弥次ヶ湯古墳も発見された。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書31	2SHIKI
第3次	平成11年度 (1999年度)	平成11年7月26日～ 平成12年3月31日	北側の範囲確認調査。紫コラ直下より水田、畠跡を検出。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書32	3SHIKI
第4次	平成17年度 (2005年度)	平成17年8月10日～ 平成18年3月31日	重要範囲確認調査。紫コラで埋没した水田跡と、須恵器、土師器を検出。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書39	SHIKI4
第5次	平成18年度 (2006年度)	平成18年10月5日～ 平成18年11月24日	重要範囲確認調査。紫コラで埋没した畠跡を検出。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書41	SHIKI5
第6次	平成19年度 (2007年度)	平成19年8月6日～ 平成20年3月31日	紫コラで埋没した水田・畠・道跡。古墳時代の畦の検出。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書43	SHIKI6
第7次	平成20年度 (2008年度)	-	集落所在地の確認のため、5地点において調査を実施。紫コラで埋没した掘立柱建物跡と道跡を検出。遺物は無し。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書47	-
第8次	平成21年度 (2009年度)	平成21年8月6日～ 平成21年9月5日	確認調査。紫コラの直下から壇状遺構を検出。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書47	SHIKI8
第9次	平成22年度 (2010年度)	平成23年1月21日～ 平成23年2月28日	確認調査。紫コラで埋没した帯状遺構、古墳時代の道跡を検出。居住域と生産域の境界付近と見られる地点を確認。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書49	SHIKI9
第10次	平成23年度 (2011年度)	平成23年8月16日～ 平成24年2月28日	確認調査。成川式土器を表面採集。遺構は無し。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書50	SHIKI10
第11次	平成24年度 (2012年度)	平成24年7月1日～ 平成24年3月31日	畦の確認調査。874年の面は既に削平されていた。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書52	SHIKI11
第12次	平成25年度 (2013年度)	平成25年7月31日～ 平成25年8月16日	確認調査。紫コラで埋没した水田、畦の交差する部分と、災害後の復旧活動の痕跡を発見。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書54	SHIKI12
第13次	平成26年度 (2014年度)	平成26年11月28日～ 平成26年12月20日	老人ホーム建設に伴う調査。紫コラで埋没した平地式建物遺構(3号建物跡)からはカマド跡や石組炉などの調理施設、周辺には調理に関する遺物が出土し、当時の生活状況を知る貴重な資料となった。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書55	SHIKI13
第14次	平成27年度 (2015年度)	平成27年9月9日～ 平成27年9月11日	公営敷領住宅の建替に伴う確認調査。6層より土師器甕が多く出土している。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書58	SHIKI14
第15次	平成29年度 (2017年度)	平成30年3月12日～ 平成30年3月14日	公営敷領住宅の建替に伴う確認調査。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書63	SHIKI15
第16次	平成30年度 (2018年度)	平成30年8月16日～ 平成30年10月31日	川路建設住宅地造成確認調査。紫コラで埋没した平地式建物(周堤状の盛土遺構)と畠跡を検出、併せて墨書・刻書土器が出土した。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書63	SHIKI16
第17次	平成30年度 (2018年度)	平成30年9月13日～ 平成30年9月18日	老人ホーム確認調査。古代の2本の溝状遺構を検出。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書63	SHIKI17
第18次	平成30年度(2018年度)～令和元年度(2019年度)	平成30年11月1日～ 令和元年8月31日	敷領市営住宅本調査1,2区。近世墓、古代の層では、鉄製甲臺が出土した。古墳時代では、切りあつた31基の堅穴建物跡と土器溜まりを検出。	整理作業中/未刊行	SHIKI18
第19次	平成30年度 (2018年度)	平成31年1月16日～ 令和31年1月17日	個人の畑地調査。紫コラで埋没した畝跡を確認した。遺物無し。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書64	SHIKI19
第20次	令和元年度 (2019年度)	令和元年10月23日～ 令和元年10月28日	老人ホーム増築に伴う確認調査。紫コラ火山灰によって埋没した溝跡が検出された。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書64	SHIKI20
第21次	令和元年度 (2019年度)	令和元年10月29日～ 令和元年10月30日	個人住宅建設に伴う確認調査。紫コラで埋没した畝跡を確認。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書64	SHIKI21
第22次	令和元年度(2019年度)～令和2年度(2020年度)	令和2年2月1日～ 令和2年5月31日	市営敷領団地建て替え事業に伴う発掘調査(3区)。古墳時代の堅穴建物跡16基を確認。	整理作業中/未刊行	SHIKI22
第23次	令和元年度 (2019年度)	令和2年2月20日	個人住宅建設に伴う確認調査。水田遺構の可能性がある。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書66	-
第24次	令和元年度 (2019年度)	令和2年2月25日	個人住宅建設に伴う確認調査。グライ土壌があり水田遺構との関連が伺える。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書66	-
第25次	令和2年度 (2020年度)	令和2年7月27日～ 令和2年7月31日	個人住宅建設に伴う確認調査。成川式土器出土。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書66	SIKI25
第26次	令和2年度 (2020年度)	令和3年2月25日	個人住宅建設に伴う確認調査。遺構遺物無し。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書68	-
第27次	令和3年度 (2021年度)	令和3年7月12日～ 令和3年7月16日	市営住宅内確認調査。古墳時代の堅穴状遺構と古墳時代の土器が集中して出土。	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書68	SIKI27
第28次	令和4年度 (2022年度)	令和4年7月7日	個人住宅建設に伴う確認調査。遺構遺物なし。	本書	-
第29次	令和4年度 (2022年度)	令和5年	個人住宅建設に伴う確認調査。	整理作業中/未刊行	
第30次	令和4年度 (2022年度)	令和4年10月1日～ 令和5年3月31日	市営敷領団地建て替え事業に伴う発掘調査(4区)。古墳時代後期の土器溜まりおよび堅穴建物跡を7基確認。	整理作業中/未刊行	SIKI30

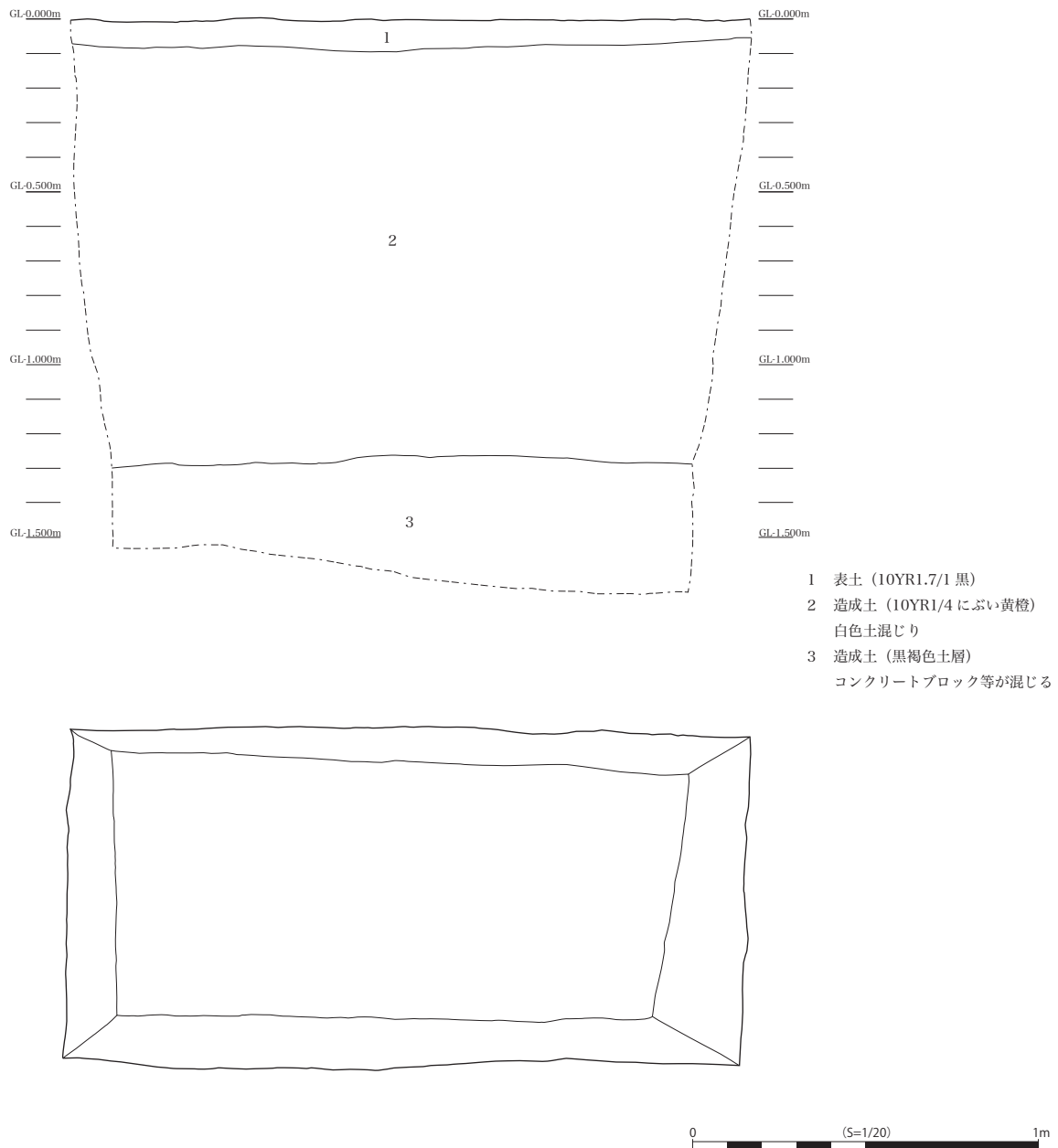


図 14 平面図と断面図

第 2 節 試掘調査に至る経緯

敷領遺跡の範囲において、個人住宅建設の計画があげられた。工事予定地周辺では、敷領遺跡 4 号建物跡やその周囲に広がる畠跡が確認されていた。そこで、開発者と工事施工業者との協議のうえ、事前の確認調査を実施することとなった。調査は江口寛基、西牟田瑛子が担当した。

第 3 節 調査結果

浄化槽設置部分(1 m×2 m)の範囲で確認調査を行った。方法は、重機による表土層の掘削を行ったのち、紫コラ火山灰層や遺物包含層が確認された時点で、人力掘削に切り替えるというものだった。

調査を行ったところ、地表面から 170cm の深さまで造成土であった。そのため、下層への影響はないと判断し調査を終了した。

第3章 道下遺跡

第1節 遺跡の立地と環境，調査履歴

道下遺跡は，指宿市西方道下に所在する遺跡で，指宿市北部を流れる湊川の南側，標高 14 m の地点に位置する。大園原遺跡に隣接する弥生時代～古墳時代の遺跡である。

過去に発掘調査は行われておらず，遺構や遺物包含層の有無については確認できていない。一方，採集遺物については，県立指宿高等学校郷土史研究会が所蔵したものが知られている。

第2節 試掘調査に至る経緯

道下遺跡の範囲において，ブリ加工場新築工事の計画があげられた。工事予定地周辺では，過去に発掘調査等が行われておらず，地層や遺物包含層の有無などの情報は不明であった。また，建物面積が広大であったことから，事前確認調査が必要であると判断された。そこで，開発者と工事施工業者との協議のうえ，事前の確認調査を実施することとなった。

第3節 調査結果

建築予定地は小丘になっており，この地形が旧地形であるかはわからなかった。そこで，予定範囲の中で4つのトレンチを設けて重機および人力による掘削を行っ

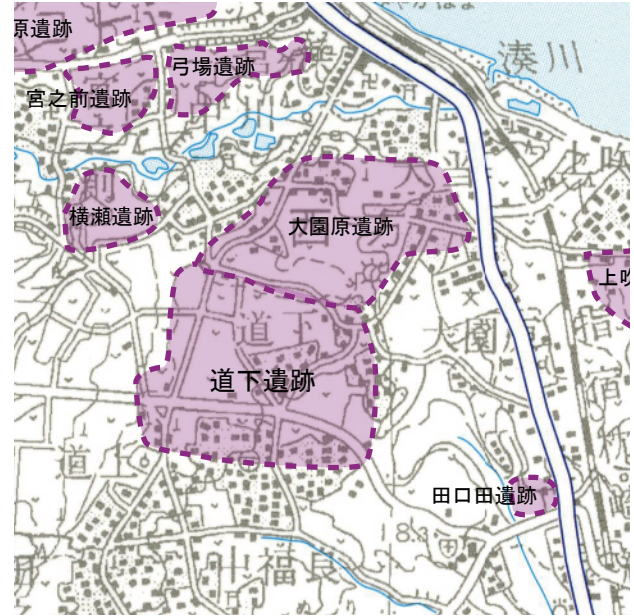


図 15 道下遺跡と周辺遺跡

た。

調査の結果，1 トレンチから 4 トレンチ，いずれのトレンチにおいても，地表面から 50cm から 1 m ほどで，池田シラス（池田湖が 6,400 年前に噴火した際の軽石や火山灰）が検出された。池田シラスは，指宿市内では低地において数 m 堆積していることから，これ以上の発掘調査はできないと判断した。造成土層からは遺物等は確認されなかった。

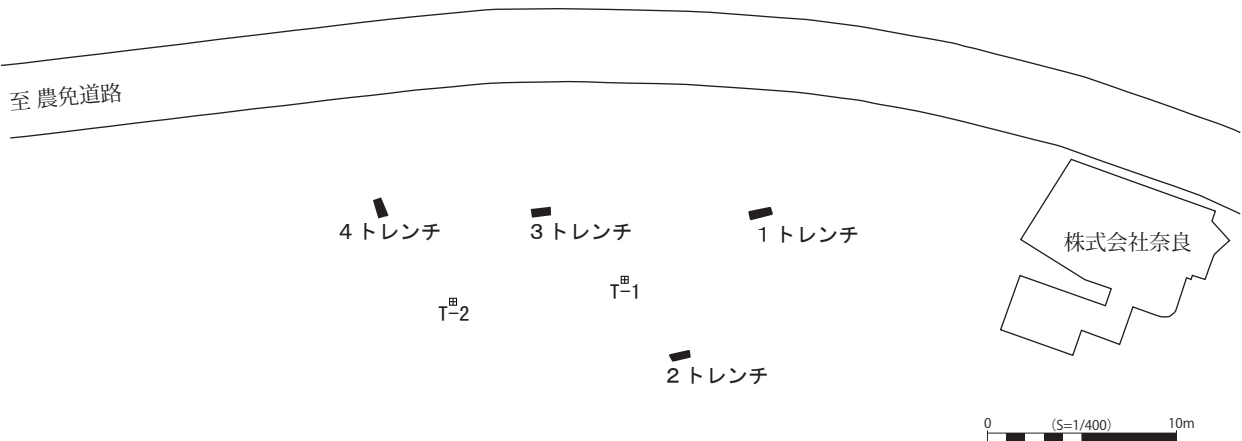
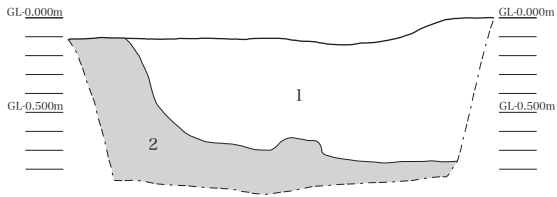
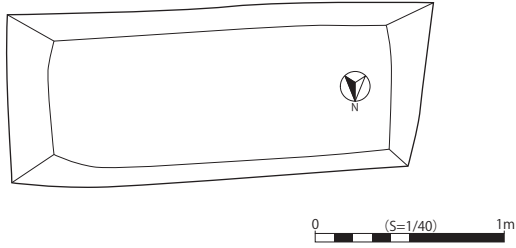


図 16 トレンチ配置図

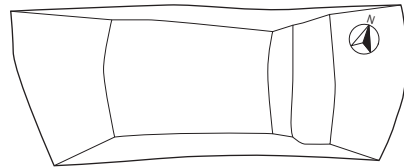


1 トレンチ南壁土層断面図

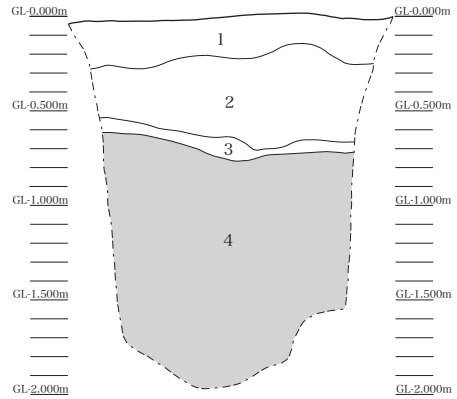
- 1 造成土
- 2 池田シラス



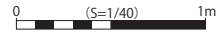
1 トレンチ平面図



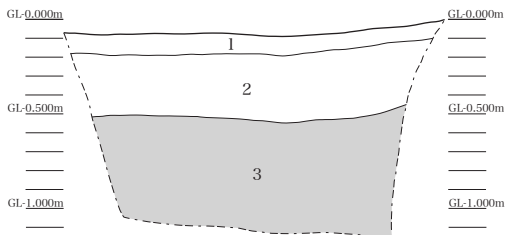
2 トレンチ平面図



- 1 造成土
- 2 黒褐色土層 軽石混じり 径5mmほどの橙色粒子混じる 粘性強い
- 3 シラス混じり漸移層 橙色粒子混じる
- 4 池田シラス

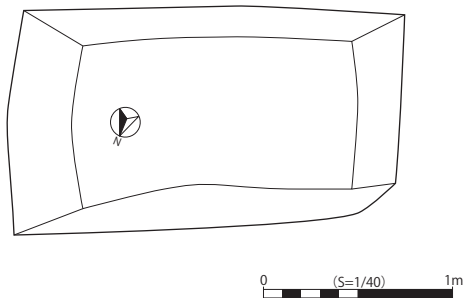


2 トレンチ南壁土層断面図

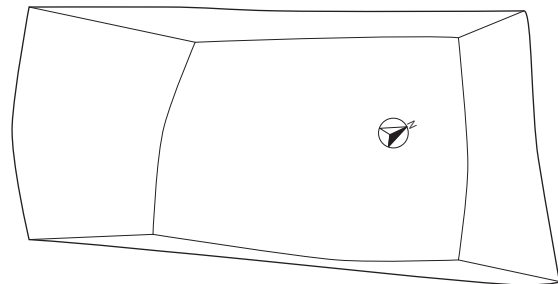


3 トレンチ南壁土層断面図

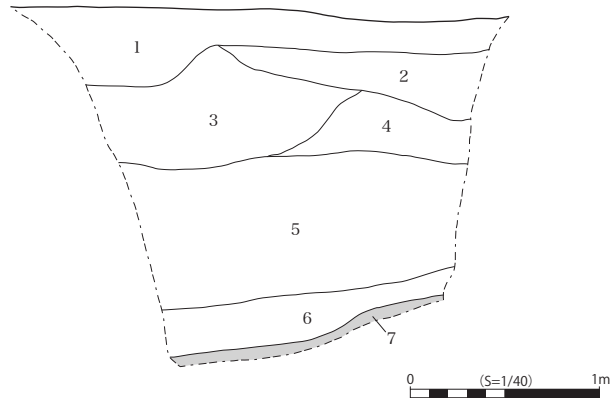
- 1 造成土
- 2 黒色土層 軽石含む
- 3 池田シラス



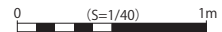
3 トレンチ平面図



4 トレンチ平面図



- 1 表土
- 2~6 造成土 (アスファルト片多く混じる)
- 7 池田シラス



4 トレンチ西壁土層断面図

図 17 各トレンチの平面図・土層断面図

第4章 上払遺跡

第1節 遺跡の立地と環境, 調査履歴

上払遺跡は、開聞仙田に位置する遺跡で、過去に遺物が採集されていることから、点的に遺跡が知られているだけだった。このたび、周辺で土取り作業中に、土器が数点出土したことから、歴史文化課へ問い合わせがあった。遺跡の範囲外であったことから、今後は遺跡の範囲を広げ、保存措置をとるように対応した。

開聞地域は、開聞岳をはじめ、鏡池や水無池など大小様々な火山が点在する地域で知られている。なかでも開聞岳の噴出物は厚く堆積しており、先史時代の遺跡については、ほとんど情報がない。唯一、指宿高校郷土史研究会が仙田遺跡の調査を行っており、膨大な量のパンケースが時遊館 COCCO はしむれに收藏されている。

そのため、今回上払遺跡周辺で出土した遺物は、当地域の考古学的情報を把握するために非常に重要なものであると位置づけられる。

第2節 採集遺物の紹介

57は甕の口縁部である。口縁部下には一条の突帯をもつ。口縁部外面には横方向のミガキがみられる。

58は甕の脚部である。外面には接合線が明瞭に残る。器部内面は暗紫色に発色する。

59は甕の底部である。わずかに上げ底状となる。

60は壺の底部である。外面には丁寧な縦方向のミガキがみられる。

61は高杯の杯部である。口縁部は外反するタイプのもので、口縁部下には一条の突帯を有する。脚部との接合面で欠損する。内外面とも赤黒い顔料が塗布されている。杯部内面は剥落が著しい。外面に突帯をもつ高杯は数は多くはないが、笹貫Ⅱ式の指標とされている。

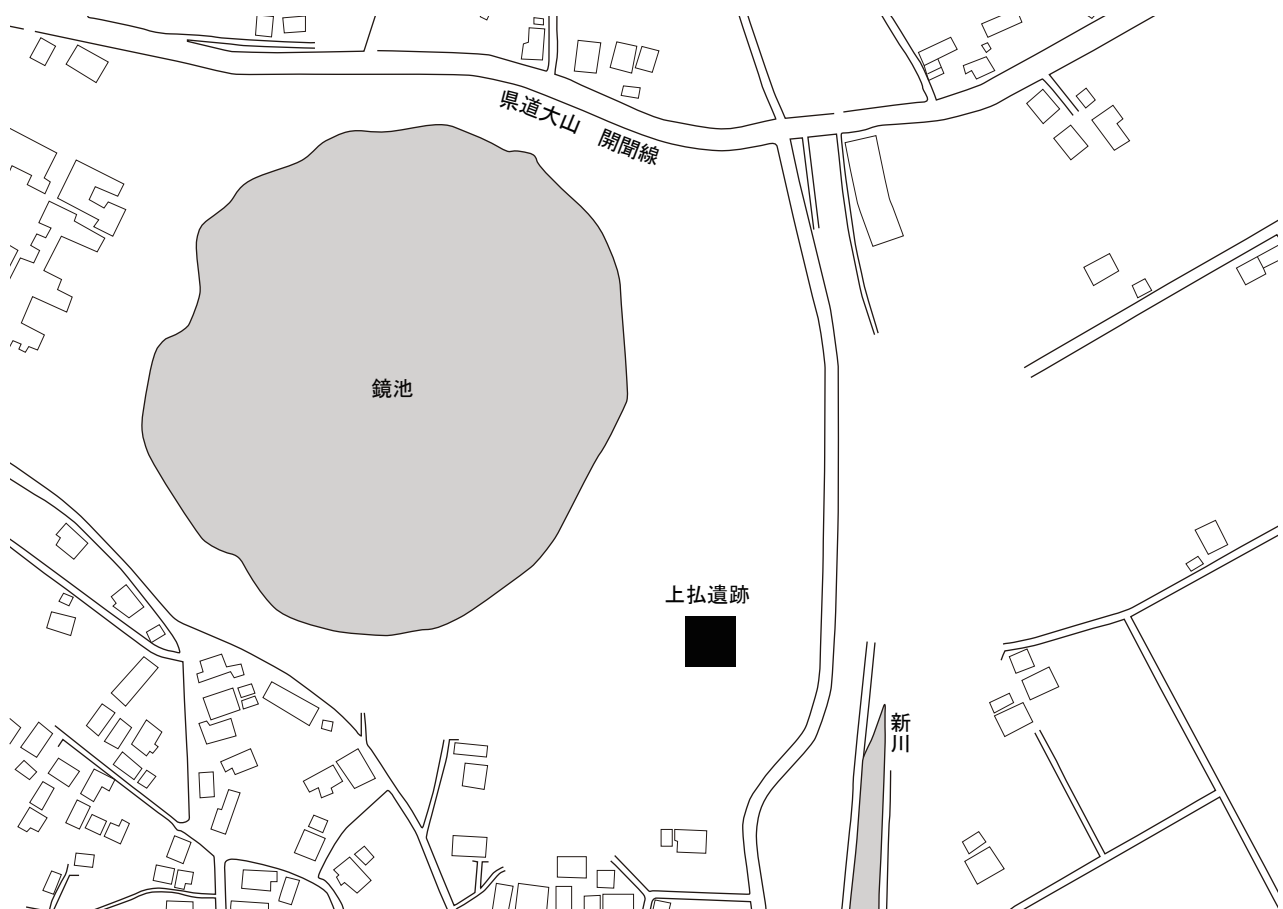


図18 上払遺跡の位置

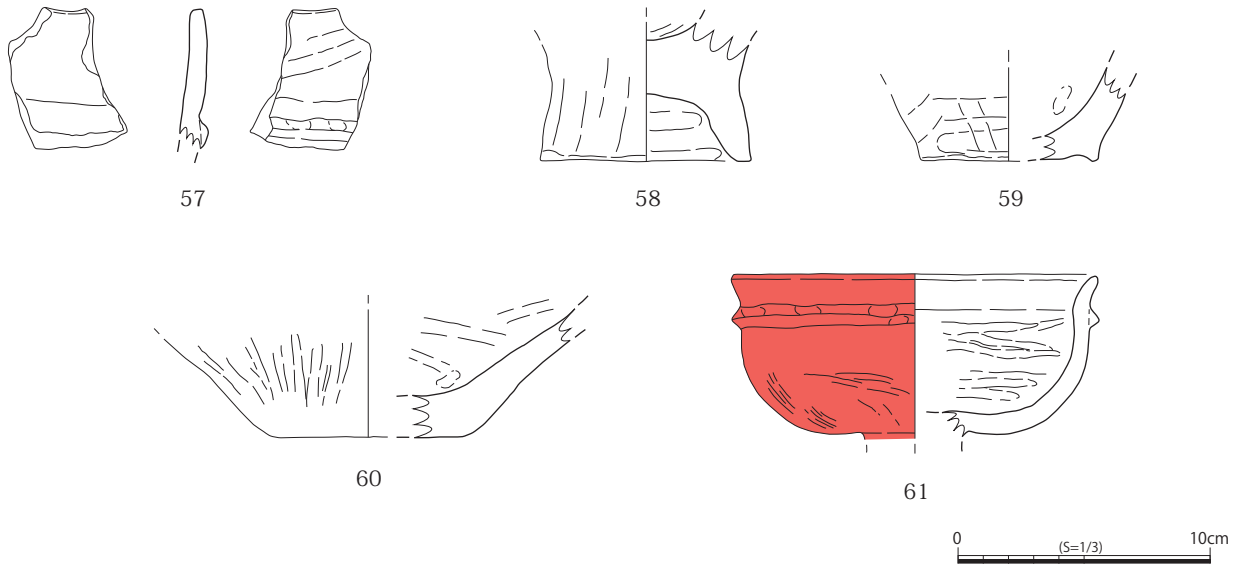


図 19 採集遺物

表 4 上払遺跡採集遺物観察表

掲載番号	器種	部位	寸法					色調			混和材	
			口径	器高	底径	脚部径	脚部高	突帯幅	内面	外面		断面
57	甕	口縁部						(1.2cm)	2.5YR5/4にぶい赤褐	2.5YR5/4にぶい赤褐	2.5YR6/1赤灰	石英・角閃石・白色粒・赤色粒
58	甕	脚部				(8.3cm)			5YR6/3にぶい橙	5YR6/3にぶい橙	2.5YR6/3にぶい橙	石英・角閃石・白色粒・赤色粒
59	壺	底部			(7.6cm)				7.5YR4/1褐灰	7.5YR6/4にぶい橙	5Y5/1灰	石英・白色粒
60	高坏	坏部	(14.5cm)		4.1cm			1.0cm	10R5/3赤褐	10R3/3暗赤褐	10R5/1赤灰	石英・角閃石・白色粒・黑色粒
61	鉢	底部			(7.0cm)				7.5YR7/4にぶい橙	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	石英・角閃石・白色粒

工事立会結果

1. 南丹波遺跡

遺跡番号 : 210-11
 調査地点 : 指宿市湯の浜3丁目2953-7
 遺跡種別 : 集落跡
 主な時代 : 弥生・古墳・古代
 調査要因 : 個人住宅建築
 遺物・遺構 : 無し

第1層	GL-0cm GL-7cm
第2層	GL-35cm



立会地点 (S=1/6000)

第1層 シラス造成土
 第2層 黒褐色層 (砂質シルト)

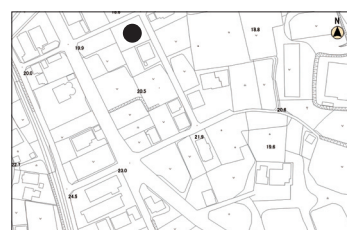


土層断面写真

2. 牟礼瀬遺跡

遺跡番号 : 210-63
 調査地点 : 指宿市十二町字六反竿原
 3763番2
 遺跡種別 : 散布地
 主な時代 : 古墳
 調査要因 : 個人住宅建築
 遺物・遺構 : 無し

第1層	GL-0cm GL-20cm
第2層	GL-45cm
第3層	GL-90cm



立会地点(S=1/6000)

第1層 表土
 第2層 造成土
 臺3層 黒色層 (砂質シルト)

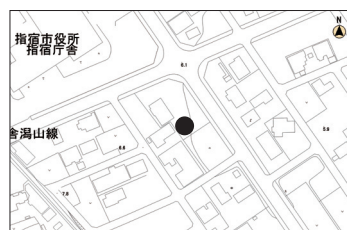


土層断面写真

3. 玉利遺跡

遺跡番号 : 210-51
 調査地点 : 指宿市都市計画事業十町
 土地区核整理事業50街区4号
 遺跡種別 : 散布地
 主な時代 : 弥生・古墳
 調査要因 : 商業施設建築
 遺物・遺構 : 無し

第1層	GL-0cm GL-60cm
第2層	GL-140cm
第3層	



立会地点(S=1/6000)

第1層 シラス造成土
 第2層 黒色層
 第3層 紫コラ層

※湧水のためGL-150cmまでの掘削で終了した。

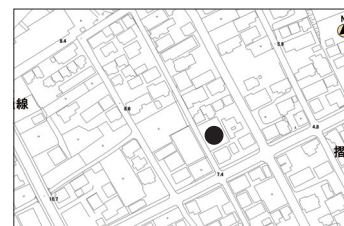


土層断面写真

4. 南丹波遺跡

遺跡番号 : 210-11
 調査地点 : 指宿市湯の浜3丁目2951-2
 遺跡種別 : 集落跡
 主な時代 : 弥生・古墳・古代
 調査要因 : 個人住宅建築
 遺物・遺構 : 無し

第1層	GL-0cm
第2層	GL-20cm
	GL-32cm



立会地点 (S=1/6000)

第1層 耕作土
 第2層 茶褐色砂質層

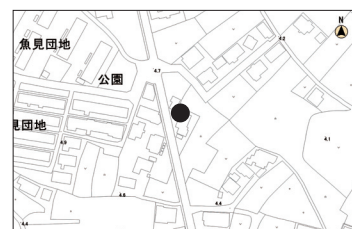


土層断面写真

5. 五郎ヶ岡遺跡

遺跡番号 : 210-49
 調査地点 : 指宿東方8434番17
 遺跡種別 : 散布地
 主な時代 : 古墳
 調査要因 : 個人住宅建築
 遺物・遺構 : 無し

第1層	GL-0cm
第2層	GL-40cm
第3層	GL-150cm
	GL-180cm



立会地点(S=1/6000)

第1層 造成土
 第2層 茶色土 (現代)
 臺3層 灰褐色シルト質層 (現代)

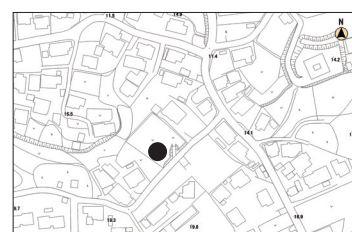


土層断面写真

6. 大園原遺跡

遺跡番号 : 210-44
 調査地点 : 指宿市西方2875-1
 遺跡種別 : 散布地
 主な時代 : 縄文・古墳
 調査要因 : 個人住宅建築
 遺物・遺構 : 無し

第1層	GL-0cm
第2層	GL-15cm
第3層	GL-100cm
第4層	GL-140cm
	GL-180cm



立会地点(S=1/6000)

第1層 シラス造成土
 第2層 造成土混じり黒色層
 第3層 黒色シルト質層
 第4層 黄褐色火山灰層



土層断面写真

7. 戦争関連施設隣接地

遺跡番号 : 隣接地
 調査地点 : 指宿市東方8886
 遺跡種別 : 戦争関連施設
 主な時代 : 近代
 調査要因 : 建物建築
 遺物・遺構 : 無し

第1層 表土
 第2層 造成土
 第3層 紫コラ混層
 第4層 黄色火山灰層
 第5層 茶褐色層

※5層以下は湧水のため不明。

第1層	GL-0cm
第2層	GL-30cm
第3層	GL-50cm
第4層	GL-110cm
第5層	GL-130cm
	GL-230cm



立会地点 (S=1/6000)



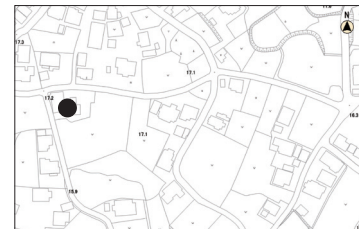
土層断面写真

8. 上吹越遺跡

遺跡番号 : 210-35
 調査地点 : 指宿市西方石ノ尾2979-2
 遺跡種別 : 散布地
 主な時代 : 古墳・中世
 調査要因 : 個人住宅建築
 遺物・遺構 : 無し

第1層 表土 (畑土)
 第2層 黒褐色粘質層
 第3層 池田火山灰 (黄色)
 第4層 池田火山灰 (灰白色)

第1層	GL-0cm
第2層	GL-70cm
第3層	GL-100cm
第4層	GL-160cm
	GL-180cm



立会地点(S=1/6000)



土層断面写真

9. 迫田遺跡

遺跡番号 : 210-37
 調査地点 : 指宿市十二町420
 遺跡種別 : 散布地
 主な時代 : 弥生・古墳・中世
 調査要因 : 道路拡張工事
 遺物・遺構 : 無し

第1層 造成土
 第2層 紫コラ混じり造成土
 第3層 茶褐色粘質層

第1層	GL-0cm
第2層	GL-110cm
第3層	GL-160cm
	GL-180cm



立会地点(S=1/6000)



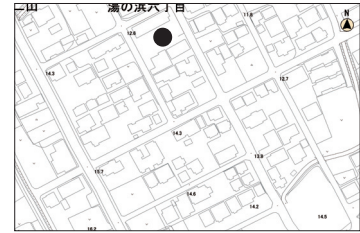
土層断面写真

10. 南摺ヶ浜遺跡

遺跡番号 : 210-62
 調査地点 : 指宿市湯の浜6丁目3691-1
 遺跡種別 : 埋葬遺跡
 主な時代 : 縄文・弥生・古墳・古代
 調査要因 : 個人住宅建築
 遺物・遺構 : 無し

第1層	GL-0cm
第2層	GL-30cm
第3層	GL-45cm
第4層	GL-60cm
	GL-80cm

第1層 表土・耕作土
 第2層 黒褐色層 (やや固い)
 第3層 黒色混じり茶褐色層 (砂質)
 第4層 紫コラ層



立会地点 (S=1/6000)



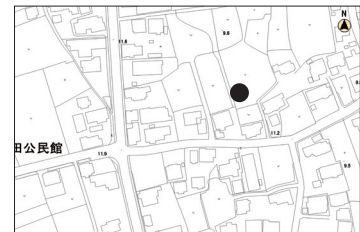
土層断面写真

11. 敷領遺跡

遺跡番号 : 210-54
 調査地点 : 指宿市十二町62-2
 遺跡種別 : 集落跡
 主な時代 : 弥生・古墳
 調査要因 : 個人住宅建築
 遺物・遺構 : 無し

第1層	GL-0cm
	GL-170cm
第2層	GL-180cm

第1層 シラス造成土
 第2層 黒色層



立会地点(S=1/6000)



土層断面写真

12. 宮之前遺跡

遺跡番号 : 210-21
 調査地点 : 指宿市都市計画事業十町
 西方地内
 遺跡種別 : 散布地
 主な時代 : 縄文・古墳
 調査要因 : 側溝工事
 遺物・遺構 : 無し

第1層	GL-0cm
	GL-80cm

第1層 茶褐色層



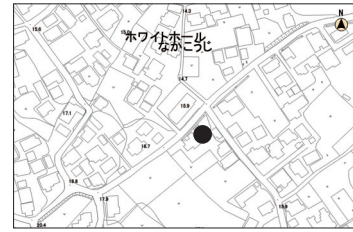
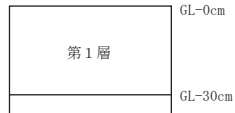
立会地点(S=1/6000)



土層断面写真

13. 小田遺跡

遺跡番号 : 210-58
 調査地点 : 指宿市十二町田原上2377番
 遺跡種別 : 集落跡
 主な時代 : 古墳・古代・中世
 調査要因 : 個人住宅建築
 遺物・遺構 : 無し



立会地点 (S=1/6000)

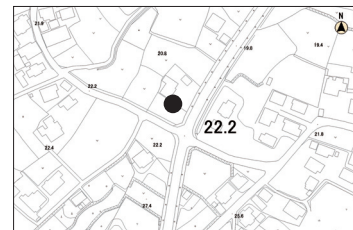
第1層 表土 (黄褐色土層)



土層断面写真

14. 中島ノ下遺跡

遺跡番号 : 210-40
 調査地点 : 指宿市東方1589-1
 遺跡種別 : 散布地
 主な時代 : 弥生・古墳・古代・中世・近世
 調査要因 : 個人住宅建築
 遺物・遺構 : 陶器・磁器



立会地点(S=1/6000)

第1層 造成土
 第2層 茶褐色粘質層
 第3層 砂質シルト混茶褐色層
 第4層 池田シラス



土層断面写真

15. 小田遺跡

遺跡番号 : 210-58
 調査地点 : 指宿市十二町2545-2の一部
 遺跡種別 : 集落跡
 主な時代 : 古墳・奈良・平安・中世
 調査要因 : 個人住宅建築
 遺物・遺構 : 無し



立会地点

第1層 表土

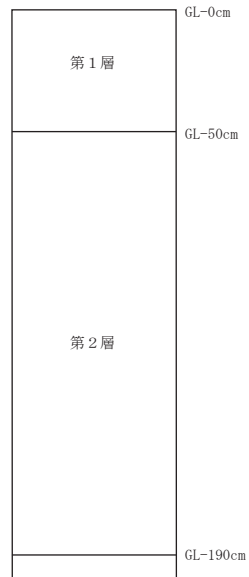


土層断面写真

16. 五郎ヶ岡遺跡

遺跡番号 : 210-49
調査地点 : 指宿市東方8434-17
遺跡種別 : 散布地
主な時代 : 古墳
調査要因 : 個人住宅建築
遺物・遺構 : 無し

第1層 造成土(シラス)
第2層 茶褐色土層



立会地点



土層断面写真



1 段目左：迫田遺跡 1 トレンチ 1 段目右：迫田遺跡 1 トレンチ（6 層検出） 2 段目左：迫田遺跡 1 トレンチ完掘 2 段目右：迫田遺跡 1 トレンチ完掘 3 段目左：迫田遺跡 2 トレンチ紫コラ上面検出 3 段目右：迫田遺跡 2 トレンチ 8 層遺物出土状況 4 段目左：迫田遺跡 2 トレンチ SK1 検出 4 段目右：迫田遺跡 2 トレンチ SK1 完掘



1 段目左：迫田遺跡2トレンチ SK1 1 段目右：迫田遺跡2トレンチ土層断面 2 段目左：迫田遺跡2トレンチ完掘 2 段目右：迫田遺跡2トレンチ掘削状況 3 段目左：敷領遺跡掘削状況 4 段目左：敷領遺跡完掘 3・4 段目右：敷領遺跡完掘



1段目左：道下遺跡1トレンチ 1段目右：道下遺跡2トレンチ 2段目左：道下遺跡3トレンチ 2段目右：道下遺跡4トレンチ 3段目：上払遺跡露頭



1 段目：鏡池と上払遺跡 2 段目左：上払遺跡露頭 2 段目右：上払遺跡立会状況 3 段目左：上払遺跡掘削時の断面 3 段目右：上払遺跡土層写真

報告書抄録

ふりがな	れいわよねんどしないいせきはつくつちょうさほうこくしょ (さこだいせき・しぎりょういせき・みちしたいせき・かみほらいいせき)							
書名	令和4年度市内遺跡発掘調査報告書(迫田遺跡・敷領遺跡・道下遺跡・上払遺跡)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第70集							
編著者名	松崎大嗣・江口寛基							
編集機関	指宿市教育委員会歴史文化課							
所在地	〒891-0403 鹿児島県指宿市十二町2290番地 時遊館COCCOはしむれ内							
発行年月日	2023年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		緯度	経度	調査期間	面積	調査起因
		市町村	遺跡番号					
迫田遺跡	指宿市十町	46210	210-37	31°14'35"	130°37'50"	2016年5月17日 ～20日	5 m ²	市道拡幅
敷領遺跡	指宿市十町		210-54	31°14'38"	130°38'3"	2022年7月7日	3 m ²	個人住宅の建設
道下遺跡	指宿市西方		210-45	31°15'51"	130°37'6"	2022年8月9日 ～10日	9 m ²	工場建設
上払遺跡	指宿市開聞仙田		210-117	31°12'34"	130°33'7"			建設土掘削 不時発見
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
迫田遺跡	散布地	古墳, 古代, 中世				成川式土器 陶磁器		
敷領遺跡	集落	弥生, 古墳, 古代						
道下遺跡	散布地	古墳						
上払遺跡	散布地	弥生, 古墳				成川式土器		

指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第 70 集

令和 4 年度市内遺跡発掘調査報告書

迫田遺跡

敷領遺跡

道下遺跡

上払遺跡

令和 5 (2023) 年 3 月

発行

指宿市教育委員会

鹿児島県指宿市十二町 2290 番地

TEL 0993-23-5100

印刷所

溯上印刷株式会社

鹿児島県鹿児島市南栄 3 丁目 1-6

TEL 099-268-1002

